（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。
※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教育委員会等	実施機関名・連携機関名 鹿児島大学教職大学院・熊本大学教職大学院
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・教職大学院等コラボ研修】 主タイトル及び副タイトル 【NITS・南九州プラットフォーム(鹿児島大学・熊本大学)コラボ研修】 ミドルリーダーマネジメント能力育成プログラム
支援事業報告書	開催日時：令和７年 12 月 13 日～12 月 15 日（月）　３日間終日 開催場所：鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市郡元１丁目 20 番－６号） 参加人数（総数）と参加者の属性：（68 人）教職大学院生 23 人、教育関係者 26 人、大学教員 19 人

目的：　教職員支援機構との協議の下，熊本大学との南九州プラットフォームを活用して、ミドルリーダーの能力向上を中核に据えながら、幅広く教職員の資質向上をねらいとした３日間のプログラムを提供した。将来的に学校経営に参画する教職員の意識醸成を目指し、学校経営やカリキュラム・マネジメント等についての講義及び演習をオンラインで実施する。

研修の効果を高めるために「NITS からの提案（第一次）」に示されている「研修目標の３要素」については、受講者に意識付けを行いたい。具体的には、全国及び鹿児島県内の著名な講師からの講話等を通じて，ミドルリーダーとしての知識やスキルについて新しく知り，自らの教育実践の特徴や考えの枠組みについて振り返り、自己の「在り方」について深めるような探究型研修を目指す。

内容：

【12 月 13 日(土)】

〔指導講話〕「鹿児島県の公立学校の現状と課題」　鹿児島県教育委員会　教育次長 紺屋宏昭 氏
　○ 鹿児島県の公立学校を概観し，教育課題への対応や教育実践についての紹介がなされた。

〔指導講話〕「かごしま県教員等育成指標の活用と研修の在り方」 県総合教育センター 鈴木周一郎 氏
　○ 育成指標の改訂の背景に触れながら、ミドルリーダーに求められる資質という観点から説明があった。

〔講義〕「学校のビジョンの理解と共有」　環太平洋大学大学 教授 浅野 良一氏
　○ 学校における共通ビジョンの設定について基本的な考え方を示していただいた。

〔講義〕「カリキュラム・マネジメントの考え方に基づく学校改善におけるミドルリーダーの役割」奈良教育大学 教授 赤沢早人氏
　○ 学校組織を活性化するためのミドルリーダーの役割の説明と実際の事例の紹介がなされた。

【12 月 14 日(日)】

〔講義〕「児童・生徒の自己実現とキャリア形成を促すキャリアパスポートの活用」筑波大学 教授 藤田 晃之 氏
　○ 学びと結びつけたキャリア教育の必要性，キャリアパスポートの具体的な活用について説明がなされた。

〔講義〕「LGBTQ+の児童生徒の存在を認識した学校での取組」 宝塚大学 教授 日高 庸晴 氏
　○ 人権教育における学校の課題として自己の教員が認識し指導する意義について議論が展開された。

〔講義〔「ワーク・エンゲージメント」 慶応義塾大学 教授 島津 明人 氏
　○ 健康でいきいきと働くために生活全般・職場環境の改善する Crew プログラム等が説明された。

〔講義〕「学校の求められるいじめへの組織的対応」 関西外国語大学 教授 新井 肇 氏
　○ 法令に基づくいじめへの対処，キーパーソン及び発達支持的生徒指導の重要性が説明された。

【12 月 15 日(月)】

〔講義〕「ミドルリーダーにとっての人材育成とコーチング」 神田外語大学 客員教授 嶋﨑 政男 氏
　○ 心理的安全性を基盤に自発的な行動を促すコミュニケーションスキルの大切さについて説明された。

〔講義〕「デジタル学習基盤を視野に入れた個別最適な学びと協働的な学び」 放送大学 教授 中川一史 氏
　○ 端末を有効活用し，情報活用能力育成の視点からの教育活動改善について議論がなされた。

〔講義〕「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育」 聖徳大学 名誉教授 吉本 恒吉 氏
　○ 道徳教育の基本的考え方を踏まえた支援を要する児童生徒への指導等について紹介があった。

〔シンポジウム〕「学校を活性化させるミドルリーダーの役割」 鹿児島大学・熊本大学教職大学院生
　○ 現職学生による大学院での学びと研究成果をもとに活発な議論が行われた。

成果：受講者の声などから，ミドルリーダーとしての資質向上に一定程度寄与できたと考えられる。

1 日目（大変参考になった 94.1%　参考になった 5.9%　あまり 0%　まったく 0%　回答数 17）

- ○　教育活動を外と中、両面から眺め直す時間になりました。主体的に考え、協働するのはまず教員自らということを実感する内容でした。
- ○　魅力ある学校づくり，教育活動の改善に向けたカリキュラム・マネジメント等を進める上で，ミドルリーダーとしてどのようなマインドセットをもつことが大切かを考えさせられた。

2 日目（大変参考になった 94.1%　参考になった 5.9%　あまり 0%　まったく 0%　回答数 17）

- ○　LGBTQ＋については、新たな知見もあり、さっそく学校でも考えてみたいと感じてます。
- ○　我々のワーク・エンゲジメントが児童生徒への影響があることも納得することができた。
- ○　自己効力感や希望につながるキャリア教育の必要性を理解することができ大変勉強になりました。
- ○　いじめ問題への取組について，「雑談から相談へ」「『学習する組織』」「語り合うことで様々な視点を取り入れるなど非常に勉強になった。

3 日目（大変参考になった 91.6%　参考になった 8.4%　あまり 0%　まったく 0%　回答数 12）

- ○　特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育に関する講義が印象に残りました。今後特別支援学級をもつ際にぜひ参考にさせていただきたいと考えます。
- ○　デジタル学習基盤については、チャットでの回答を求められましたが、参加者の先生方の意見を知ることができ参考にしたい考え方が多かったように感じています。
- ○　ミドルリーダーとして自分には何ができるのか，勤務校をどのようにより良くしていきたいのかを全職員で知恵を出し合えるような雰囲気づくりを目指してできることをひとつずつ進めていきたいと思いました。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本コラボ研修については，「NITS からの提案(第 1 次)」を踏まえ，特に研修目標の 3 要素について関連を図った。各講義等において，現在の学校教育における問題の所在について具体例を挙げながら，受講者に知識やスキルを習得する必然性に気付かせ，学習指導要領，中央教育審議会答申，学術論文等を背景にした説明がなされた。先行研究や実践例が紹介される中で受講者は，自らの教育実践を振り返る機会を得られた。受講者の感想等から，これらのことは，ミドルリーダーとしての自己の「在り方」について内省を促し，勤務校での学校改善に対する意欲向上につながったと考えられる。

アイディアや工夫したこと：※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明すること。

本コラボ研修を構築するにあたり，熊本大学担当者と協議の上，学校現場の教育課題解決の契機となる指導者・講師を依頼し，11 の講座を開催することができた。構成において，学校のビジョンづくり，カリキュラム・マネジメント，働き方改革を含めたワーク・エンゲージメント，ミドルリーダーの学校での役割，いじめ等全校体制で取り組むべき課題への対応，デジタル学習の進め方等，今日的な教育課題に対応する内容を盛り込み受講者の参考となるよう工夫した。各講座等においては講師説明の他，配信ソフトのチャット機能やグループ協議の機能を活用し，参加者相互の意見交流が行われ好評を得た。また，各講座終了時に受講者からの質疑と講師の応答の時間を設けたことで，理解が不足だった部分が明らかになり，具体例を交えた説明等によって全体の理解が深まった。

今回は，研修の最終コマに鹿児島大学及び熊本大学両教職大学院生によるシンポジウムを行い，大学での学びや本コラボ研修で得た知見を基に，ミドルリーダーの役割についての発表やグループによる協議を行い研修の締めくくりとした。